

「阿蘇ふるさとづくり自然塾①」事業報告書

企画指導専門職 三枝ひとみ

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 子どもたちに共同生活の機会を与え、調理や掃除、洗濯など日常生活体験を自分たちの力でに行わせることによって、子どもたちの自主性や社会性、他人と協力して生きていく力を育てる。また、集団での規則正しい生活を通して、基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、自学力の向上を図る。
- (2) 期 日 平成29年12月4日(月)～12月9日(土) 【5泊6日】
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家
- (4) 参加者 一の宮小学校4～6年生 33名(男子8名、女子25名)(募集人数30名)
- (5) 担当職員 三枝ひとみ(企画指導専門職) 山下正晃(企画指導専門職)
志賀泰成(事業支援室主任) 萱野太一(事業推進係員)
- (6) 内 容 【1日目】開会式、アイスブレイク、個人や班のめあて設定、学習、朝食準備
【2日目】朝食づくり、洗濯、学習、朝食準備
【3日目】朝食づくり、野外調理(カレー)、学習、朝食準備
【4日目】朝食づくり、洗濯、献立作り、学習、朝食準備
【5日目】朝食づくり、レクリエーション(キンボール)
【6日目】野外調理(カレーとオリジナルメニュー)、閉会式

2 成果と課題

(1) 成 果

- 「朝食づくりや洗濯は自分でするととても疲れた。毎日している家族の気持ちがすこし分かった。」「料理をしたことがなかったけれど作り方を覚えたので家でもやってみたい。」「最初はいろいろなことに時間がかかったけれど、4日目には先を見通して早めに行動できるようになった。」などの参加者の感想があった。生活体験の場を多く設定しできるだけ自分のことは自分でさせることで、参加者に達成感や家族の大切さや大変さを感じさせ自分で考えて行動する態度を身に付けさせることができた。(満足度97%)
- 「みんなで協力してたくさんのお手伝いをやることができた。」「班の人とだんだん仲良くなってうれしかった。これからももっとたくさん友達を作っていきたい。」「どうすればいいかわからない時に周りの人が声をかけてくれたから安心できた。」などの感想も聞かれた。異学年による班での活動や学習により、学校では関わることのない友達との交流が深まり、共に活動する楽しさや協力する喜びを感じることができたことがうかがえた。
- 学習時間を1時間確保し、宿題が終わった児童用に自学プリントを準備したことで、全員が集中して学習に取り組み、自ら学ぶ態度が見られた。また、活動班ごとに席を指定したことで、学年を越えて教えあう姿が見られた。
- 参加者ノートに書いた1日のふりかえりにコメントを書くことで、体調や心配事などを把握でき、個別に対応することができた。また、期間中、学校との連絡を密にとり、体調面の情報共有をすることで、大きなけがや病気もなく無事に過ごすことができた。

(2) 課 題

- 夜間の対応に備えて宿泊をするため、担当職員の男女比を考慮する必要がある。また、早朝や夜間の対応が主になるため、担当者同士の情報共有が十分にできるようにする必要がある。
- ボランティアや地域の方にも活動に携わってもらえるような体制ができるとうりよい。

3 事業の様子



活動班でのめあて作り



朝食づくり



1日のふりかえり



野外調理



洗濯体験



学習の時間



レクリエーション



宿泊室の清掃